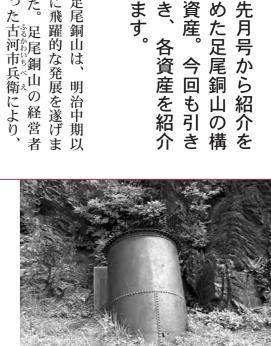
足尾銅山を世界遺産へ 足尾銅山を構成する資産の紹介②~

続き、 新しい技術や設備などが だった古河市兵衛により、した。足尾銅山の経営者 降に飛躍的な発展を遂げま足尾銅山は、明治中期以 成資産。 始めた足尾銅山の構 各資産を紹介 今回も引き

山になりました。 約40%を占める日本一の銅 代には日本の全銅産出量の 次々と導入され、明治20年 なった電力施設や産銅量の 今回は、その原動力と

用鉄橋、坑内廃水などの処由来して名付けられた道路れた製錬所、古河市兵衛に 理施設として設置された浄 害により技術改良が続けら および鉄道、煙害と鉱毒被増加に伴い整備された索道 生涯学習課 文化係 堆積場を紹介

21 5



①間藤水力発電所跡

輸送方法の変化などに い大量の電力が必要に 明治23年に建設さ



②通洞変電所

果たしました。鉱山事務力を管理する中枢機能を 以降、 なり、 壊された今も、変電所と に位置し、鉱業所が取り所である足尾鉱業所近く 通洞変電所は、 電所が建設されました。 電所からの送電が主流に 足尾銅山の使用電 各地に変圧所や変 大正中期

立ち並び、市道から見る力発電所や通洞動力所が ことができます



変電所の一画には、はして使用されています。 明治末期以降、 細尾発

③有越鉄索塔

の索道が架けられました。 有越鉄索塔は、通洞選 重搬するための索道の支 を上して、昭和4年に建 を上して、昭和5年に建 をは、通洞選 現在はロープが外され塔 に簀子橋堆積場が完成し、てられました。 昭和35年 ことにより使命を終え、 トラック輸送に変わった 尾索道架設以降、 エーです。 られた輸送用の口 索道(鉄索)は、 が残ってい に輸送用のロープウ廃泥の運搬に用い 政以降、数多く明治23年の細 物資、

細尾発電所にその役割がり発電規模の大きい日光ました。明治39年にはよ 山近代化の原動力となり電灯などに利用され、銅 坑内の排水や坑内電車、れました。その電気は、 引き継がれました。 水圧鉄管の一

説明板には当時の写真が保存されており、近くの 部が市指定文化財として

5本山製錬所

金足尾鉄道

煙害克服のための技術改も発生しました。その後、の排出によって煙害問題 たが、同時に亜硫酸ガス量が飛躍的に増加しまし 良が続けられました。 先端技術を導入し、 開設されました。 直利橋製錬分工場としていずるため、明治17年に 行るため、明治17年に銅の産出量の増加に対 当時の 生産

尾線となりました。足尾し、大正7年には国鉄足足尾〜足尾本山間が開通

足尾間が、

大正3年には

鉱業により敷設されまし

大正元年には桐生~

送力の強化のため、

産銅量の増加に伴う輪

の国鉄民営化とともに貨されましたが、昭和62年鉱石や硫酸の輸送に使用銅山の閉山以降も、輸入

川の対岸の市道から全景の自溶炉が残っています。 導入された無公害製錬法 現在の施設には、 戦後

鐡道として桐生~間藤間

わたらせ渓谷

物線が廃止されました。



失しましたが、明治23年年の松木の大火により焼架設されました。明治20に伴い、木造の直利橋が 橋になりました。 に鉄製の橋に架け替えら 保存されています。 で、市指定文化財として極めて貴重な道路用鉄橋 分工場が開設されたこと 、 当時のまま現存する。 になりました。 架橋以、 このとき名称が古河 明治17年に直利橋製錬

河橋が平行して架橋され 下流側に新古

理が行われています。施設を改良し今も浄水処

中才浄水場は、

当時の



7净水場

(製錬所廃水を含む)からることが義務づけられ、本山、通洞などの主要坑口にそれぞれ浄水場が設けられ、通過などの主要坑のでの主要坑のでである。 水は中才浄水場で処理さ理され、通洞坑からの廃 れました。 の廃水は間藤浄水場で処 令により坑内廃水はすべ令された鉱毒予防工事命 明治30年に政府から発



鉱毒予防工事命令により 堆積場は、明治30年の どを集積しています。 石垣が設けられ、 設置されました。 廃石な

は同様の堆積場が12か所での45年間使用されました。当時は、廃石などのた。当時は、廃石などのた。当時は、廃石などのが使われていました。当時は、廃石などのがした。当時は、廃石などのが、場ができる。 和35年に設置された簀子ありましたが、現在は昭 原堆積場は、 大正6年

11 | 2008年3月号 広報 にっこう | 10